

# 自然育児法研究会でお話ししました

3月に自然育児法研究会という助産師さんが中心になって活動されている団体の依頼で講演をさせていただきました。

この研究会は、母乳育児の推奨はいうまでもなく、妊娠中の健康から出産、産後のケア、そして育児に至る全過程を人間本来の自然な生活活動として捉えて、できるだけ薬や人工乳に頼らない育児法の普及に努めています。

病院での出産と粉ミルク授乳が一般化した現状では、助産師さんによる「自然育児法」というと何か「特別のこと」のように思われそうですが、本来は出産も育児も病気ではないわけですから病院での診療の対象ではありません。むしろ、できるだけ医師の手を煩わさなくてもよい出産や育児の方が自然なことで、それをサポートするのが自分たちの職務だ、との信念を持たれた助産師さんたちの自主的な研究会です。

当日は、第81回の研究会ということで、ベテランの助産師さんをはじめ、実際に自然育児法で子育てをされているお母さんたちも含めた、この会に共鳴する方たちが全国から参集されていました。

私たちは、「日本人にとっての『足と靴』の問題性—足から考える日本のこと、子供のこと—」と題して、日本人の足と靴の現状とその歴史的背景、ドイツにおける整形外科靴技術の発展と現状、そして、ドイツ整形外科靴技術による対処例、等々の内容を、特に全体を通して成長期の子供の問題を考慮しながら話させていただきました。

途中小休止を挟んでの2時間余りの講演でしたが、ご専門の立場での問題意識を持たれて、大変熱心に聞いて下さいました。

特に、戦後の量産化による靴の急速な普及によって日本人の「足と靴の問題」が一般化した時期が、粉ミルクの急速な普及の時期とピッタリと重なっている点を捉えて、ご自身が取り組まれている「自然育児の解体に伴う様々な問題」と「足と靴の問題」が同じ原因に由来すると思うとのご指摘には、大変感銘を受けました。

お昼休みの後、実際に足を拝見し、フットプリントを採ってご説明をしたり、歩き方や足の体操などをご紹介しましたが、さすがに実践的な専門職の方達ですので、非常に熱心に見聞され、すぐにでもご自身のお仕事に生かして頂けそうで、本当に頼もしく感じました。

医師をはじめ、看護師、理学療法士の方々など、医療現場で診療にかかわられている皆さんからは日頃多くのことを学ばせて頂いていますが、今回は、同じ医療職とはいっても、ご自身の職業意識としては、医療現場ではない日常生活空間で出産と育児をサポートする、つまり「診療の対象ではない、出産、育児の主体であるお母さんと赤ちゃんへのサポーター」とでもいうべき助産師さんたちから、多くの新しいことを学ばせて頂きました。

出産後すぐに足の状態をチェックするといわれるドイツと異なり、日本においては、何よりも足に関して無関心なことが足と靴の問題を大きくしている要因なわけですから、問題が顕在化して病院へ行く前に、生まれた最初から足への関心を持つようにサポートして下さる助産師さんたちの存在は、この上なく重要だと思いました。

「自然育児法」の中に「足の健康法」も加えて頂ければ嬉しいです。

す。

靴を履いて歩くのは初めて、とのこと。

お便りは、その2日後のご報告です。

足に合った体をしっかり支える靴が、人間の歩きたいという自然な欲望を満たすためにいかに大切か、まだ言葉で表現

できない小さなお子さんが、ちゃんと身をもって示してくれるのです。

ぐずって歩きたがらない時は、靴にも問題がないか、よく見てあげると良いですね。

嬉しいご報告を、早速にありがとうございました。

